

■ 現役部員活動報告

OB・OG 係 3回生 津田 新太郎

OB・OG の皆様、平素よりお世話になっております。OB・OG 係の津田といいます。未だ去らないコロナ禍の中、EWA CHOR は定期演奏会に向け限られた活動時間で集中して練習に取り組んでいます。

第 63 回定期演奏会は 2 部構成となっております。第一ステージは正指揮者による、谷川俊太郎作詞・木下牧子作曲「いのちの木を植える」。幻想的なハーモニーから始まる曲集ですが、終曲に近づくにつれキャッチャーなメロディラインとフォルテッシモで徐々に場を盛り上げます。

第二ステージでは当間修一先生による宮沢賢治作詞・千原英喜作曲「月天子」を演奏します。千原英喜氏が表現する宮沢賢治の悲嘆や月への信仰に注目です。2009 年の定期演奏会にて本組曲の初演を任せられた先輩方に恥じないハーモニーをお届けしようと思います。ご期待ください。

来年度には本大学と大阪市立大学の統合が控えているため、大阪府立大学混声合唱団としての定期演奏会は今回が最後となる節目です。これまでの EWA CHOR の活動は OB・OG の皆様に支えられてきました。特にこの度は、皆様から「つばさ基金」を通して多くのご支援を賜ることになります。これらのご支援に対し、改めて深く感謝いたします。また、大学統合という大きな転換を迎えるこれから EWA CHOR に、どうか引き続きご協力の程よろしくお願ひいたします。

<第 63 回定期演奏会>

日時：2022 年 1 月 15 日（土）15:00 開場 15:45 開演

場所：たかいし市民文化会館アプラホール大ホール

◇今年度も OB・OG の皆様向けのご招待状はございません。
◇ご予約等も不要ですので、ご来場の際には、直接会場にお越しいただき、受付にて OB・OG である旨、お申し出ください。
◇なお、本原稿執筆時点（2021.12.3 現在）の情報です。今後の新型コロナウイルス感染拡大の状況により変更等がある場合には、OB・OG 会ホームページ（<https://ewachor.jp/>）にてお知らせしますので、ご来場の際には、ご確認ください。（久米）

■ 現役部員からのご寄付の依頼について

久米 秀樹（H2 卒）

大阪府に 4 回目の緊急事態措置が発令される直前の 2021 年 7 月 17 日、Joint Concert 2021 に行きました。4 大学の合同コンサートの予定でしたが、当時、まん延防止等重点措置期間でもあり、1 大学が出演を断念せざるを得ず、出演は 3 大学となりました。EWA CHOR の演奏は、いつもながら素晴らしいハーモニーを奏でていたのですが、何よりも驚いたのはステージに立つ部員の少なさ。当日配付のパンフレットの出演者名簿によると、1 回生が 1 名、2 回生が 3 名しかいなく、この状態が今後も続ければ EWA CHOR の存続に関わる事態となることは明らかで、新型コロナウイルス感染拡大に伴い大学の部活動が制限される影響の大きさを改めて実感しました。

その後、しばらくして現役部員より「つばさ基金」を活用した活動資金援助の相談があり、OB・OG 会役員の皆様にもご連絡の上、「現役部員からのご寄付のお願い状」及び「つばさ基金」の関連資料を同封させていただきました。OB・OG 会が会員の皆様にご寄

付をお願いする場合には、OB・OG 会規程に則り、臨時総会を開いて事業及び予算のご承認を得る必要がありますが、今回のご寄付については、現役部員からの直接のご寄付依頼ですので、その手続きを行っていない点について、ご理解賜りますようお願い申し上げます。なお、現役部員には、ご寄付の目的・使途を明らかにして、報告及びお礼等を行うよう伝えています。

「つばさ基金」は大学の寄付制度で、使途を EWA CHOR に指定することにより、ご寄付金額の 115 分の 15 を乗じた管理的経費を差し引いた金額が、大学から EWA CHOR 現役部員に支給される仕組みになっています。ふるさと納税制度や税制上の優遇措置等も用意されていますので、少ない実質負担で EWA CHOR の支援をすることが可能です。なお、個人情報保護の観点から、大学から EWA CHOR 現役部員や OB・OG 会にご寄付をいただいた方の個人名が知らされない点は、ご承知おきください。

今回の現役部員からのご寄付の依頼は、EWA CHOR 創設 67 年間の長い歴史の中で初めて経験する世界的パンデミックに対応するための緊急的な活動支援であると受け止めています。「部員数減少」→「演奏会費用や部費等の経済的負担増」→「さらに部員数減少」という悪循環を避け、EWA <ドイツ語 EWIG(意味は「永遠に」の古語)> の命名に込められた想い通り、EWA CHOR が今後も永く存続して活動できるよう、OB・OG の皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

■ 第 62 回定期演奏会ご来場お礼

2021 年 1 月 17 日（日）たかいし市民会館アプラホール大ホールにおいて第 62 回定期演奏会が開催されました。36 名の OB・OG の皆様にご来場いただきました。ありがとうございました。

<第 62 回定期演奏会ご来場者ご芳名（敬称略）>

S36	江崎健一郎	H14	山口 茜	H29	勝間康介
S42	梶川純史郎	H14	松本早紀	H29	朝比奈修也
S47	渋谷義郎	H15	宍戸俊一	H29	吉田享祐
S51	黒川真知	H16	上道明生	H29	高橋詩織
S51	米田 薫	H25	加藤篤樹	H29	横畠真季
S51	米田由岐子	H25	近藤大樹	H31	大西菜央
S55	久米川貞雄	H26	井上明彦	H31	岩本雄太郎
S56	石尾雅昭	H27	谷地勇哉	H31	松倉梨華
S57	木戸秀雄	H28	前田彩香	R02	松本佳大
S57	木戸直子	H28	前田賢大	R02	遠藤萌夏
H02	久米秀樹	H28	松井琴音	R02	大城怜南
H05	阿部 剛	H29	藤原典明	R02	山下冴月

<ご寄稿>

文・画：江崎 健一郎（S36 年卒）

第 62 回大阪府立大学混声合唱団 EWA CHOR 定期演奏会が 1 月 17 日（日）午後 5 時 30 分から「たかいし市民文化会館ホール」大ホールで開かれ楽しみにして出かけた。たまたま今年最初の猪熊佳子日本画教室が同日午前 10 時半から日本橋であり、教室の後、腹ごしらえして、南海本線、「難波」乗車、余裕をもって会場最寄り駅「高石」に着いた。チケットは予約制。コロナ感染対策として、参加者の事後追跡のために氏名、自宅電話番号が確認条件、入場前の検温、そしてホールでは各席左右の席を避けるよう手配されていた。

会場で配布されたパンフレットには「絶望から」という文字と先に

光が見えたことを示す情景を写した写真が目に飛び込んだ。同じく配布パンフレットに部活顧問、大阪府立大学大学院理学系研究科、西野貴子氏は「新型コロナウイルス蔓延で、経験の共有の場である場が閉じられ、特に、多人数で呼氣を発する合唱は危険視され、大学によってはいまだに活動再開を認めていないところもある。そのような中、団員たちは厳しい決断を迫られた。そんな苦境の中、ステージを選んだ団員の立ち姿、まっすぐな視線、今だけの奏でられる音を、本日の演奏会で、暖かく受け止めていただければありがたい」と書かれた。

演奏会会場はいつもと違う雰囲気だった。一言で言えば、それは、息をひそめる感じだった。時節柄、一人一人が、私語を控えたせいもあるかもしれない。演奏会は部歌のあと第一ステージ、混声合唱曲集「光と風をつれて」、詩：工藤直子、作曲：木下牧子、指揮：前田悠貴、客演伴奏：木下亜子から始まった。ステージに全員がマスクをつけて登場した。清涼感溢れるメロディーが、親しみのある言葉を集めた詩と調和して心の中に染み込むように伝わった。詩の中に「あいたくて」というくだりがあった。配布パンフレットに添えられた言葉に「コロナで全く人に会えないときは寂しい。そんな時近くに話し相手がいると、少し楽になる」との言葉を見つけた。

第二ステージはアメリカの作曲家、エリック・ウッテカー作品の中から「夜」をテーマにしてアラカルトにした4曲「The Seal Lullaby」、「I walked the boulevard」、「Water Night」、「Goodnight Moon」が指揮：杉崎皓子、客員伴奏：木下亜子のもと演奏された。魂レベルというか、軽妙ながらそれでいて深遠な心豊かにしてくれる曲だった。

この日は演劇はなし。トリとして第3ステージは無伴奏混声合唱のための「After…」。詩：谷川俊太郎、作曲：信長貴富、客演指揮：当間修一のもと演奏された。団員全員が思いの丈を込めて歌った演奏に長い拍手が続いた。配布されたパンフレットに当間修一氏は「新型コロナウイルス感染を思うとき、ウイルスの発生源や正体は今だ解明されていないが、感染対策として「人」の問題として捉えておかないと「人災」となってしまう」「人が集まることを抑えた。練習が滞り、恒例のスケジュールもこなすことが出来なかった。音楽は人間が生きることと密接に関わっている。人間らしく生きよう。ただ閉じこもるだけではない。否定的、消極的にだけでなく。悩み、悲しみ、励まし、喜び、生きる」を謳歌する。それが私のメッセージです。EWA CHORは演奏会を開くことを決断した。」と書かれた。作詞：高田敏子、作曲：信長貴富、混声合唱曲「夕焼け」がアンコール曲として演奏された。演奏のあと当間修一氏は会場に向かい、「団員は演奏会を開くことを選んだ。みんなが心を一つにして真正面から取り組めばコロナを克服できることを示した。本当に頑張ってくれました」と挨拶された。

学生だけのアンコールでは、作詞：谷川俊太郎、作曲：木下牧子「春に」が演奏された。お開きの際、会場に感謝を伝える挨拶で、エヴァ・コール部長の王美恵さんは、感極まって涙される場面があった。ここまで来るには様々なことがあった。みんなが心ひとつにして一つ一つクリアした。そしてこの日、演奏会を無事終えることが出来た。よくやったよとご自身を含めて団員を褒める涙だったに違いない。元気をいただき、ひたすら感謝である。爽やかな気持ちになって家路についた。(了)



■ EWA CHOR 歌集 第1集・第2集

久米 秀樹 (H2卒)

OB・OG の皆様が現役部員の時代に歌集はありましたでしょうか？ 私(H2卒)の場合、少し記憶があいまいですが「愛唱曲集」というのがあったように思います。

今年1月にS49卒の土居様が歌集(第2集)を私宛てに送ってくださいました。奥付ページには、昭和39年3月5日発行、編集及び責任者としてS39卒の小泉様の掲載がありましたので、早速、小泉様に連絡したところ、小泉様から第1集<昭和38年5月12日発行>の現物もご提供いただきました。第1集、第2集の現物を私が保管しています。幹事代表交代の折には後輩に引継ぐ等、永く大切に保管したいと思います。なお、あとがきには歌集発行の経緯が詳しく記載されていますので、小泉様のご了解を得て、あとがきの画像を以下に転載して、ご紹介いたします。

あとがき

エヴァ・コール創立十周年あたり、今までエヴァ・コールで歌って来た数々の歌を、一つのまとったものにし、十周年記念パーティーや今年から既定するOB・OG会の例会などで、なつかしい先輩方、又今活躍する現役の人達と共に大合唱してみたいという気持からこれらの曲を集めに廻りました。

既に数人の先輩方にはお忙しい中を遅くまでお邪魔して大変御迷惑をかけましたが、その甲斐あってここにすばらしい第一集が出来上りました。今年卒業した我々としては、楽譜のかり切りまでは完遂する予定でしたが、とうとう集めるまでに終り、後は現役の人達にその手を煩わせる結果となり、申し訳なく思っています。

さて、ここに出来ました「第一集」は、第一回演奏会の前の年までの曲の中より抜粋したもので、ノア曲ですから相当省略した形となりましたが、経済的、時間的都合の為、止むを得なかったのです。この点もお許し下さい。

何ともあれ、これは、とくに大先輩の方々には非常になつかしいものと信じます。大勢で歌って頂ければ勿論のこと、たとえ少數でも、若かった青春の学生時代を想い返して十分に楽しいひとときを過して頂けると思います。又今後第一回演奏会より二年乃至三年を区切りとして逐次、号を重ねる予定になっております。御期待を。

手始めとしてこの「第一集」が皆さんに十分に利用して頂き、しばしおいのひとときをつくって頂ければ、これに過ぐる慶びはありません。

最後に重ねて、ガリ切りなど編集・印刷に当たって下さった現役の人達に「メンドクサイ仕事、どうも御苦労さんでした。」

昭和38年度卒業生 (高橋 稔)

へんしゅう こうき

やっと出来ました。全くそう感じました。この小冊子が先輩方に気に入ってくれるかどうか心配です。十分に満足できるものではありませんが、末永く皆様に可愛がっていただければ、これ以上の喜びはありません。

忙しい時期に毎夜遅くまでガリ切りに取り組んでくれた人達、連休の一週間休日を返上して黙々と印刷を手伝ってくれた人達に心から感謝いたします。

<第1集 曲目一覧 (全17曲)>

六つの野外曲	メンデルスゾーン	狩人	ドイツ民謡
羊飼いの歌	メンデルスゾーン	別れ	ドイツ民謡
Excelsior	M.W.Balfe	タベの鐘	
可愛らしいフィリス	J.Farmer	故郷の人々	S.C.Foster
夢	R.Scuman	懐かしの歌	ヨハン・シュトラウス
Going Home	津川主一編曲	村の風車	ビゼー
鐘の物語		鞞靼人の舞曲と合唱	A.Borodin
コサックの悲歌	津川主一編曲	Gloria	W.A.Mozart
樅の森の鶯	バーデン民謡		

EWA CHOR OB・OG 会報 (第17号)

令和3年12月発行 (発行部数 550部)

<幹事連絡先>

久米 秀樹 (H2年卒)

e-mail